

平成23年度
若手消防団員意見交換会
報告書



(財)兵庫県消防協会マスコット「消太くん」

(財)兵庫県消防協会

はじめに

消防団は、地域の安全・安心の確保のため、地域の防災力の要となっています。しかし、消防団員は全国的に年々減少しており、かつては 200 万人いましたが、今や 90 万人を割っており、地域防災力の低下が懸念され、消防団員の確保が大きな課題となっています。また、消防団員のサラリーマン化や高齢化などの課題も指摘されています。

兵庫県消防協会でも広く消防団活動への理解を深めていただくため、ホームページの運営や、未来の消防団員確保のため県内の中学生へ、リーフレットやクリアーファイルの配布を行ったりしています。また消防団員の表彰や福利厚生事業など、団員の方々が活動しやすい環境整備に取り組んでいます。

この「若手消防団員意見交換会」は、実際に現場で活動している若手消防団員の皆様の意見をお聞きし、今後の協会の取り組みに役立てていくため、平成 15 年から毎年各地区で実施しています。

消防関係の皆様にもこの意見交換会での意見をご覧いただき、今後の消防団運営や活動の参考としていただければ幸いです。

なお、本報告書は、若手消防団員の皆様の意見をテーマ別に要約して記載しましたので、類似意見の割愛や文言の修正等をさせていただいておりますので、ご了承下さい。

最後になりましたが、県内各地区での意見交換会の開催にご尽力いただきました各支部事務局の皆様に厚くお礼を申し上げますとともに、ご参加いただいた若手消防団員の皆様の今後のご活躍をお祈りいたします。

目 次

1	入団のきっかけ	1
2	普段行われている消防団の活動	2
3	消防団活性化対策・団員確保対策	4
4	今後改善すべき点	6
5	消防団活動について困っている点	8
6	消防団活動についてよかったと考える点	9
7	操法大会について	10
8	その他	11

平成 23 年度若手消防団員意見交換会報告書

1 入団のきっかけ

- ・ 父親が消防団員であったため、自分も携わりたいと思っていた。
- ・ 消防吏員を目指していたが、別の仕事に就いた。消防の仕事に携わりたいと考えていた中、消防団という組織を知り入団した。
- ・ 地域に知り合いを作るきっかけとして入団した。
- ・ 私たちの地域では、青年団を引退すると自動的に消防団に入団するようなシステムになっている。
- ・ 分団の幹部が自宅まで来られ、ほぼ強制的に入団させられた。最初は嫌々ながらの活動でしたが、勉強になることも多く、入団して良かったと思っている。
- ・ 兄の退団と入れ替わりで入団することになった。
- ・ 地域の決まりで、学校を卒業したら、1軒につき1人は入団するという取り決めがあるので入団した。
- ・ 当初は補助団員として入団した。町で消防団員を何名か選出することになっていましたが、仕事から常時参加できないことを説明したところ、参加出来る範囲でかまわないということで、補助団員として活動していた。その後、正規団員の方に欠員が生じたため正式な団員としての勧誘を改めて受けた。その頃には消防団員としての活動にも慣れてきていたため、正規団員になることを承諾した。災害活動において補助団員も正規団員と同じ活動をしているが、会議などに出ることは無い。

(※定数以上の消防団員が生じた場合、地方公務員としての登録は定数分しか出来ない。そこで、超過した消防団員については自治会の消防団員として、自治会が予算を組み、運営している場合がある。これを補助団員と呼び、正規団員に欠員が生じた場合の補充要員として確保されているところもある。)

- ・ 幼い頃から地元で育つ中で、消防団員になることは当然のことだと思っていた。自分のふるさとを守り、地域の安全、住みやすい環境作り、そして地域の繋がりを大切にしたいという思いが強かった。
- ・ 消防団に興味を持っていたところ、幹部からの勧誘を受け入団した。
- ・ 長男であり、地元就職のため、勧誘があれば入団することが義務だと思い入団した。

2 普段行われている消防団活動

- ・ 入団時に市民救命士のインストラクター資格を取得し、市民へ指導している。
- ・ 小学4年生を対象に防災学習を実施している。
- ・ 分団で基本訓練を定期的に行い、支団で行う訓練でその習熟度を確認する。
- ・ 夏祭り・年末警戒・土嚢積み・機械器具取扱訓練・ポンプ操法等を月1回ほどのペースで行っている。
- ・ 女性消防団員が中心となり、自治体や自主防災の応急手当普及員として指導を行ったり、男性消防団員が中心となり消火体験や消防車乗車体験を行っている。
- ・ 図上訓練や水利部署の想定訓練、出勤走行訓練等を行っている。
- ・ 女性消防団員も男性消防団員と一緒に水防訓練を行っている。
- ・ 小学校の行事へ共同参加し、水出し実演も行う。
- ・ 駅伝大会やボーリング大会、ゴルフコンペなど消防団内のレクリエーションも豊富に行っている。
- ・ 月1回ポンプ車から放水訓練を行っている。災害時に誰でもポンプ車を操作できることを目的としている。

- ・ 毎月のポンプ車からの放水訓練に加えて、消火栓の点検も行っている。
- ・ 消火栓ボックスの点検では、ホース延長したり、器具が揃っているかの確認を行う。
- ・ 無線テストと巡回パトロールをしている。

3 消防団活性化対策及び団員確保対策

- ・ 若手の勧誘に力を入れる。
- ・ 消防本部と消防団の違いを人々に伝え、消防団組織について知ってもらう。
- ・ 東日本大震災を通じて消防団活動への理解が深められたと思うので、勧誘に積極的に使いたい。
- ・ 活動内容の詳細や要点を周知したうえで活動に取り組むようにすべき。
- ・ 消防団の活動について、地域の方々へ分かりやすく理解していただくため、地域の方々が馴染みやすい活動を考えていきたい。
- ・ 団員のサラリーマン化により、有事の際の集まりが難しくなっているため、地域の方々との連携を積極的に図ることが必要。
- ・ テレビで消防団員勧誘のCMを流したら良いと思う。
- ・ 職場に消防団活動について理解していただくことが必要である。
- ・ 自治会や祭り、地域の行事で団員勧誘の呼びかけを行っている。
- ・ 現在の社会的風潮から、若手が消防団活動に対する理解を示さない。ある程度の自己犠牲を全く行わない風潮が、若手の消防団離れを促している。
- ・ 団員数や組織の再編成が必要だと考える。
- ・ 入団しても、その後続くかどうかは本人の意志・努力・責任感による。消防団で頑張っている活動していこうと思える環境作りや雰囲気作りを心がけていかなくてはならない。
- ・ 昼間活動出来る女性消防団員の確保が必要。
- ・ 消防団が訓練している姿を地域の方々へ積極的に見せることが、新入団員の

獲得にも繋がる。

- ・若手消防団員の活動環境や団員同士の繋がりを考えると、年齢層のバランスも必要だと考える。
- ・入団する方法が分からず、消防団に入団したくても出来ない人がいると聞いた。消防団が具体的にどんな活動をしているのかをPRし、入団の機会を広げることが必要である。
- ・県の消防協会が中学2年生へ配布しているクリアファイルとリーフレットを小学校高学年にも配布することが効果的ではないかと考える。
- ・退団する団員が、新入団員を探してくる。探さなければ退団できない流れが出来ている。
- ・消防団に入団するメリットを感じない。負担が大きいと感じている。消防団活動に参加することのメリットが必要であると考えます。
- ・消防団がなぜ必要であるのかを幼稚園や小学生の頃から行政や自治会が教えていかなければならない。
- ・年配の方は消防団の存在を知っているが、もっと幅広い層に活動を理解してもらうため、操法の練習風景を広報してはどうかと考える。
- ・詰所が保育所に隣接しているので、出勤時に園児が手を振ってくれる。次代の団員確保・育成のため、小学校などに出向き消防団活動のPRをすることは必要だと考える。

4 今後改善すべき点

- ・現在の積載車では進入が困難な地域が多いため、軽積載車の導入を進めて欲しい。
- ・山火事での搬送が困難なため、小型動力ポンプの軽量化を望む。
- ・高度な資格技術を持った団員登用の制度が必要だと感じる。
- ・消防団は酒ばかり飲んでいるというイメージを変えたい。
- ・団員の勤務状況に応じて、有事の際に出動が可能かどうかの情報を分団内で周知しておく必要がある。
- ・活動服・ヘルメット・長靴等の貸与品について予算の関係上、一斉に配布されないが、活動服などは、一斉に支給していただきたい。
- ・操法大会はタイム勝負な点があるので、現場で困ることがあるため専門性などを学べる講習会を開催して欲しい。
- ・団員の誰もがポンプ車の操作、水出しが出来るようにしていきたい。
- ・火災現場での経験が浅いことが不安である。先輩を見習いながら出来る事からしていきたい。機械器具の取扱にも不安がある。消防団 0B の手助けが必要だと感じる。
- ・家庭も大切にしたいし、自分の時間も大切にしたい。時代の変化に伴い、簡素化出来る部分は見直す必要がある。
- ・自主防災組織との連携が必要であると考える。
- ・消防団協力事業所制度は、企業にとってのメリットが少なく、なかなか普及しにくい状況がある。
- ・水防工法の訓練を実施していないが、今後実施していく必要があると考える。

- ・地域の行事への協力は必要だと考えるが、消防団が便利屋の様になっている傾向がある。今一度整理しなければならない。
- ・幹部の出動回数が多いので、事業の見直しを考えてもらいたい。
- ・消防団に籍を置いているにも関わらず、活動に参加しない、所謂幽霊団員の扱い。
- ・幽霊団員については、基本的に退団すべきと考えているが、未然に防ぐ方法や状況を改善する方法を模索している。

5 消防団活動について困っている点

- ・ 消防団内で、先輩に対して意見を言いにくい状況がある。
- ・ 消防団活動に対する家族の理解が乏しい。
- ・ 活動の質を高めることと、団員確保の為の状況が反比例する。
- ・ 団員確保のため、自治会をとおして親御さんに話しをするが、消防団の大切さは理解してもらえても、我が子が入団するとなると協力してもらえない現状がある。
- ・ 私は役場に勤めているので、消防団活動に対して職場の理解を随分えていると思うが、民間の企業においては、なかなか理解を得られないのが現状だと思う。また、団員の考え方にもよるが、消防団活動よりも仕事やプライベートを優先するという考え方が、若者になるほど強いように感じる。有事の際はいかに人を集めるかといとところに苦心している。
- ・ 地域に若者がいないので、地域の活動における役職を一人が複数兼務しているのが現状である。これでは、地域全体が疲労してしまう。
- ・ 消防団活動へ仕事で急に行けなかった際に、もめることがある。
- ・ 定期点検等の後片付けを若手ばかりがしていることが良くないと思う。
- ・ 自営で忙しい時の消防団活動は困る。
- ・ 土日のイベントなどの活動が多い。
- ・ 毎月の点検だけでは、何も覚えられていない。実際今もポンプ車の操作が分からない。
- ・ 雪の多い地域なので、冬は水利の確保等に追われている。
- ・ 訓練後の付き合いが苦痛で退団した団員がいる。

- ・ 所属分団から離れたところに住んでいるので、火災等に間に合わない。
- ・ 兄弟で入団できないなど地域の慣例があり、団員確保が難しい。

6 消防団活動についてよかったと考える点

- ・ 消防団員は多種多様な本業を持っており、人脈が広がり良い経験が出来ている。
- ・ 地域の人々と関わるため、地域の様々な情報が入り、自分の住む町に詳しくなった。
- ・ 消防用資機材について詳しい知識を得ることができた。
- ・ みんなで何か目的を持って活動しているのが良い。
- ・ 消防団の活動が、地域の活性化に繋がっている。
- ・ 消防団に入団していなければ、被災地等へ赴く機会は少ないが、消防団に入団していることで、ボランティア精神で行ける。
- ・ 活動の参加者がたくさんいて、非常に協力的である。
- ・ 転居に伴い他の消防団から移籍してきたが。地域住民の防災意識の高さに驚いた。地域によって、防災に対する考え方も違っていることに気づいた。
- ・ 知り合いが増え、旅行などの行事が楽しい。
- ・ 困った時、先輩が力を貸してくれる。

7 操法大会について

- ・現在の小型動力ポンプ操法は、規律も含めた訓練となっているので、良いと思う。
- ・操法は消防団員としての誇りを持つことが出来、実践経験を積むことが出来る。
- ・器具の取扱など、操法の練習自体が消防活動に不可欠なこと。
- ・操法の練習を通し、下の者に指導できるようになる。
- ・団員数が少ないため、練習の都合が合う人がおらず、困っている。
- ・毎年地区で操法大会を行うのは正直言って厳しい。地区大会も二年に一回にしてもらいたい。
- ・基本的に大切なことではあるが、実践で無意味な部分もあるのではないだろうか。
- ・大会に向けての練習は、団員にとって負担になっているかもしれないが、基本を習得するために必要なことだと考えている。
- ・操法は非常に大切であるが、タイムを競う必要があるのか疑問を感じる。選手以外の団員も理解し、習得していかなければならない。指導会のような形式も必要ではないだろうか。
- ・操法は、自分の身を守るためにも、同僚団員の身を守るためにも非常に重要であると考え。基本の動作が出来ていなければ、現場での応用は出来ないと考える。
- ・ポンプ操法を教えるために、新入団員を選手にしているが、勧誘時に活動は月に何回も無いと言って勧誘しているので、入団していきなり操法の練習や大会への参加となると、新入団員が困惑しているようだ。

- ・ 出場してくれる団員が少なく、同じ団員が何回も出場しなければならない。
- ・ ポンプ操法は必要だが、毎年行動要領が変更されて覚えるのが大変。
- ・ 操法大会となると敬遠されるので、新入団員対象のポンプ講習会等にしてもらいたい。
- ・ 消火訓練のみで十分であり、操法大会は必要ない。

8 その他

◇災害時の招集方法

- ・ 携帯メールで消防本部から情報が送られてくる。
- ・ 防災無線のスピーカーの活用
- ・ 器具庫のサイレンの活用
- ・ 団長から班長、班長から団員へ順次連絡するしくみが取られている。

◇東日本大震災等の災害をとおして思うこと

- ・ 地域ぐるみでの繋がりが大切。
- ・ 自治会内での連絡統制が重要。
- ・ 有事の際、消防団の位置づけを明確にしなければならない。お金の問題ではなく、使命感の問題である。地域の消防団を良くする方策を自治体が積極的に取り組んで欲しい。

◇女性消防団員について

- ・ 入団されることに抵抗は無いが、火災現場で活動させるのはどうかと思う。後方支援の役割を担っていただくと良いと思う。予め、活動の区分を決めて

おこななければならないと考える。

- ・ 女性消防団員が入団する分団においては、更衣室やトイレなどの整備も検討しなければならない。

◇安全管理について

- ・ 普段の訓練では声かけを徹底しているが、有事の際に声かけを怠り、事故になりそうになったので、声かけの徹底を話し合っている。
- ・ 必ず複数で行動し、声かけの徹底を行っている。健康管理については、個々の自覚の問題だと考える。
- ・ 有事の際、団員の本業の勤務状況によっては、睡眠が足りない状態のまま強引に出動要請を受ける場合もある。このようなことが現場での事故に繋がる場合もあると思うので、周りの団員で現場を守ることが出来る体制作りが必要である。
- ・ 現場活動での安全のため、様々な災害を想定した安全講習を自治体を実施して欲しい。

平成 23 年度若手消防団員意見交換会実施状況

地区名	開催日	開催場所	参加団員数 (人)	階級内訳 (人)		
				部長他	班長	団員
神戸	平成 24 年 1 月 21 日	神戸東急イン	14	14	0	0
阪神	平成 24 年 1 月 29 日	ホテル「ホップイン」アミニング	16	2	1	13
東播磨	平成 24 年 2 月 12 日	播磨町中央公民館	15	4	3	8
中播磨	平成 24 年 1 月 28 日	姫路市防災センター	20	3	5	12
北播磨	平成 24 年 2 月 10 日	北はりま消防組合 加西消防署	17	12	1	4
西播磨	平成 24 年 2 月 18 日	ホテルサンシャイン青山	14	3	5	6
但馬	平成 24 年 1 月 29 日	八鹿文化会館	14	2	0	12
丹波	平成 24 年 3 月 4 日	丹波市消防本部	15	4	6	5
淡路	平成 24 年 3 月 1 日	淡路広域消防ビル	15	5	3	7
合 計			140	49	24	67

(財) 兵庫県消防協会

〒650-0011

神戸市中央区下山手通4-16-3

TEL: 078-333-8073

FAX: 078-333-8076

URL <http://www.hyogoshoubou.jp/>